

令和7年10月5日

令和7年度 都川水の里公園・稲作体験講座【第6回】

第6回の活動は、2週間前の9月21日に脱穀した粳（粳米ともいう）の粳摺り作業とサツマイモの芋掘り、10組34人の方が参加しました。天気は曇りで気温27℃、少ししのぎやすくなった気候での作業となりました。

粳摺りは、脱穀した粳から粳殻（外被）を取り除き（「脱ぶ」という）、玄米にする工程のことです。明治中期までは、石臼や木臼、土臼などの摺臼（するす）を使った人力での粳摺りを行っていました。明治時代に「ロール式脱ぶ機」や「衝撃式脱ぶ機」が発明され、昭和初期に粳摺りの機械化が進みます。そして、1950年代にロール式粳摺機が普及を始めます。

今回は、「機械式粳摺り機」と「磨臼（するす）」、「板摺り」を使って粳摺りを体験しました。機械式粳摺り機は、投入口から粳を入れると、「脱ぶ」と「米選（米の選別）」が自動で行われます。さらに未熟米の粳（しいな）やくず米を選別する米選機を使用し、米選の精度を高めます。参加者は、粳摺り機から出てきた玄米や粳殻手で触って確かめていました。

「磨臼（するす）」は、上下二つの木臼を重ねて、上部の穴から粳米を投入し、上部の臼を回して粳摺りを行います。上臼の上部に取り付けた棒を左右交互に回して行います。一人で臼を回すにはけっこうな力を必要します。一人で回したり、子ども二人や大人と子どもの二人で回したり色々体験しました。臼を何度も回すと、上下の臼の隙間から粳殻と玄米が出てきます。

「板摺り」は、箱の底板に粳を入れ、木っ端を回すように摺ると粳から粳殻が取れます。底板に息を吹きかけて粳殻を飛ばします。磨臼に比べると効率はあまりよくありませんが、粳から粳殻を取り除くことができます。

粳摺りを終えて収穫できた玄米は、約138kg（2.3俵）と昨年とほぼ同じ収量でした。今年も夏の高温障害の影響で平年より2～3割の減収となったと考えられます。

6月に畑に植えたサツマイモは、植えてから4か月後の収穫となりました。始めに芋の蔓を鎌で切り取って芋掘りの準備をします。参加者は、1～2株の芋掘りを体験。今年は夏の高温と少雨の影響で昨年よりやや少ない収穫となりました。収穫した芋は、2～3週間追熟すると、でんぷんが麦芽糖などに糖化して甘味を増します。2週間後の収穫祭では甘くて美味しい焼いもを食べられるでしょう。

粳摺り作業の合間に、稲刈り後の田んぼで、二番穂（稭稲、稭生）、バツタやカエル、コナギやカヤツリグサ、タコノアシ等の生き物の観察を行いました。



粳摺り機による粳摺り体験



ロール方式の脱ふ部分



篩（ふるい）による米選



粳殻の感触を確かめる



摺臼（するす）で粳摺り体験



同左



摺臼（するす）で粳摺り体験



同左



粳の板摺りを体験



同左



芋掘り



同左



芋掘り



同左